

こなん

2024.1.15
第123号

発行

湖南・甲賀環境協会

草津市草津3丁目14-75
滋賀県南部環境事務所内

TEL 077-567-5444

(080-8329-2319 協会専用携帯)

URL: <https://kkkankyo.com/>

◆湖南・甲賀環境協会 会長挨拶	1面	◆水質事故被害拡大防止訓練 座学・通報訓練	5面
◆滋賀県南部環境事務所 所長挨拶	2面	◆水質事故被害拡大防止訓練 実地訓練	6面
◆滋賀県甲賀環境事務所 所長挨拶	2面	◆第2回環境担当者研修会	7・8面
◆第1回環境担当者研修会	3面	◆環境美化の日	8面
◆環境先進企業見学研修会	4・5面	◆記事の訂正について	8面



新年のご挨拶



湖南・甲賀環境協会 会長 小山 和俊

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えることとお慶び申し上げます。

旧年中は当協会の運営に関し、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本年も引き続きご支援ご協力の程よろしくお願ひ致します。

さて、環境問題は年々深刻化が進み、特に地球温暖化は環境問題の中で最も広範囲に及び、かつ最も深刻なものになっています。

令和5年は、猛暑が続き各地で5～8月の平均気温が観測史上最高を記録し、真夏日の回数も年間での最多記録を更新しております。この異常気象ともいえる中、台風の発生は例年になく少ない状況ですが、上陸により各地で甚大な被害が発生しております。

気候変動の激甚化は私たちの社会生活に大きな影響を与えるだけでなく、環境事故にも直結し、これまで以上の対策や災害発生時の備えが求められています。

環境の話題でいえば、昨年末にCOP28がアラブ首長国連邦(UAE)のドバイにて開催され、最終合意文書「UAEコンセンサス」が全会一致で採択されました。成果としては世界の気候変動問題への取組状況を評

価するグローバル・ストックテイクの結果が示されたり「損失と損害」基金の新設が決定され、最終合意文書では、2030年までに再生可能エネルギー容量を3倍、エネルギー効率を2倍にする目標設定や化石燃料からの脱却加速に言及したものの、発展途上国向けの資金支援に大きな進展はなく、石炭火力発電の削減時期など踏み込んだ言及は行われず、成果と課題を残すものになったと思います。

ただ、世界全体の大きな流れとして地球環境破壊を食い止める方向性は変わっておりませんし、私ども湖南・甲賀環境協会を立ち上げられた諸先輩方からお聞きした【この豊かなびわ湖を主とした環境を守り、未来につなぐ】という思想は、全世界の流れに共通するものだと確信しております。

一つひとつの活動は小さな流れかも知れませんが、皆さまと方向性を一つにすることで大きな流れになり、やがては世界をも変えていく。

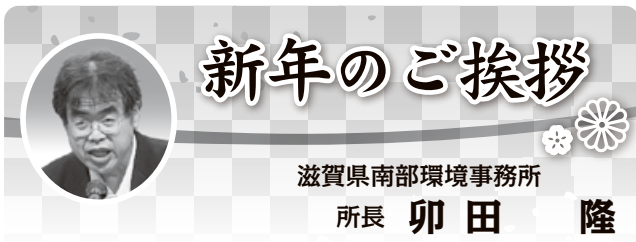
今年は辰年ということで、天高く昇る龍のように勢いのある年にしていきたいと思いますし、上へ上へと昇る龍が皆さまへ幸運を呼び込んでくれることを願ひ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



2023年を振り返ると様々なものが値上がりした一年ではなかったでしょうか。なかでも電気・ガス・ガソリンなどの価格上昇は私たちの生活だけでなく企業活動にも大きな影響を与えていることは日々感じられていると思います。地球温暖化防止のためという大きな目標のために省エネや節電に取り組むことはもちろんのことですが、日々の私たちの生活防衛や、企業活動にとっても大事な取組となっています。では具体的にどのようなことを進めていけばよいのでしょうか？恐らく皆さまのところで(家庭でも会社でも)省エネに十分取り組んでいると思いますから、さらに進めるにはより多くの努力が必要ですね。

そこで言い古されたネタですが、ガソリンに目をつけ自動車通勤をされている方は通勤手段を自転車や徒歩(ランニング)に変えてみてはいかがでしょうか。この時期寒さ対策など大変な面もありますが、ガソリン代の節約にも健康増進にもと良いことづくめですよ。さらにカーボンニュートラル取組のスコアP3では通勤時のCO₂削減にも取り組まなければいけませんし。そうは言っても、とは言わず今年の目標にしてみたいかがでしょうか！もちろん、自転車の場合は電動アシスト付ではなく充電のいらぬ100%人力ですよ。その方が体も温まりますし。

(澄)



新年のご挨拶

滋賀県南部環境事務所

所長 卯田 隆

謹んで新年のお慶び申し上げます。

旧年中は湖南・甲賀環境協会のみなさま方には水質事故被害拡大防止訓練や研修会の開催と大変お世話になり、御礼申し上げます。地区別懇談会も今後予定がされており、引き続き御協力よろしくお願いいたします。

昨年はWBCでの大谷翔平選手の活躍で待ジャパン優勝に始まり、阪神・岡田監督が【A・R・E】を達成し、熱バ三連覇のオリックスも制して、38年ぶりの日本一。野球好き、特に卯年ではありましたが虎党のみなさまには久々の熱い一年となりました。

実際にも、国連のグレーテス事務総長局長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が訪れた」と発信したように世界各地を熱波が襲った暑い一年でもありました。世界気象機関(WMO)も1850年以降、世界の平均気温がこれまでの最高値の2016年のプラス1.29℃を超えることが確実になったと発表し、まさに【地球沸騰の時代】が始まりました。

その影響か、台風や秋雨前線等による降水量が少なく、琵琶湖の水位は12月10日の時点で、基準より73センチまで下がりました。水位低下が75センチで節水の呼びかけ、90センチを超えると取水制限が検討されます。1994年にはこれまで最大の123センチ低下し、南部工業用水を利用の事業場には直接、節水のお願いに伺ったことを今も覚えています。今後、水位が戻ることを願うばかりです。

この地球沸騰は冬季の琵琶湖水温を下がりやすくしています。例年1月から2月に表層から底層まで全層が7～8℃程度の同

じ水温まで下がり、北湖の底まで十分な溶存酸素を供給しています。その『琵琶湖の深呼吸』と呼ばれる現象が確認されなくなっています。平成30年と31年の初春は『琵琶湖の深呼吸』が不完全となり、そのことが夏から秋にかけて北湖の底で貧酸素化や溶存酸素が枯渇する範囲を広げ、その影響は翌年以降まで及んでいます。昨春まで3年連続で『琵琶湖の深呼吸』は確認されましたが、暖冬の新春はどうなるかと気にかかるところです。

『琵琶湖の深呼吸』はどんな現象でしょうか。鍋でお湯を沸かすと、鍋底で温められたお湯が沸騰で生じた気泡のように表面まで到達します。その対流現象を上昇ではなく、下降する側の流れに着目します。湖表面の水が寒気で冷えて、沈み込み、最後は表層から湖底まで同じ水温になるのが全層循環、溶存酸素濃度が一定となるのが『深呼吸』です。

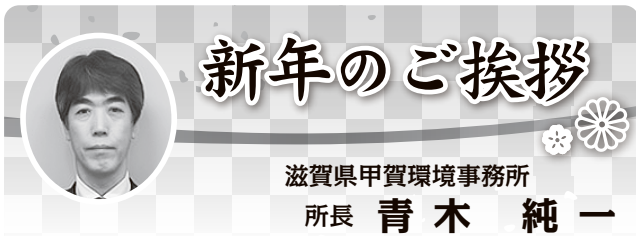
『深呼吸』の始まりの全層循環させるために、琵琶湖の水をかき混ぜる労力はどれくらいでしょうか。浴槽約200リットルのお湯を一人が1分間かき混ぜれば水温一定になると仮定すると、琵琶湖水量は27.5億トンなので、単純計算では県民140万人が68日と5時間程度かき混ぜて全層循環となります。実際には例年『深呼吸』があと一息まで進むため、1パーセントの労力で十分としても県民全員が1週間、『琵琶湖の深呼吸』のためにかき混ぜるといふ悪夢となります。

自然災害を招く台風直撃や豪雪等は避けたいですが、当たり前にあった降雨量や降雪量、厳しい冬の冷え込みと季節風が琵琶湖を保っていたと、当たり前前に感謝したいと思います。

その当たり前前の『琵琶湖の深呼吸』を後押しする壮大な湖水攪拌方法を考えますが、人間が直接琵琶湖に手を加えることは、あの吉良先生に夢でお叱りを受けてしまいます。

みなさまの初夢で、いい方法がもし思い付かれましたら教えてください。

最後になりましたが、新年が地球にも琵琶湖にも、そしてみなさま方にも、より良い一年となりますように祈念いたします。憧れる夢ではなくて、正夢として実現しましょう。



新年のご挨拶

滋賀県甲賀環境事務所

所長 青木 純一

明けましておめでとうございます。

湖南・甲賀環境協会会員および役員の皆様方におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また旧年中は県の環境行政推進と地域の環境保全に対する格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、貴協会と共催させて頂いた環境担当者研修会、水質事故被害拡大防止訓練や、びわ湖の日等の環境美化活動に多数の御参加を頂き心より感謝申し上げます。

令和5年は、暑いどころか「熱い」一年となり、地球が「沸騰」しました。世界各地で50℃超の驚異的な気温を観測し、6～8月の平均気温は観測史上最高を記録しました。国内でも同様に最高を記録、夏日や真夏日の回数も年間の最多記録を更新しました。台風の年間発生数・上陸数も記録的に少なく、本県でも琵琶湖の水位が低下し、船舶の航行などに影響が生じました。

COP28では、各国の温室効果ガス削減目標の強化で一致できるかが焦点とされました。パリ協定の1.5℃目標達成に向けた各国の取組状況の棚卸し「グローバル・ストックテイク」では、現状の取組では目標を到底達成できず更なる対策が必要とされました。化石燃料からの脱却に向けて各国が立場や思惑の違いを乗り越える必要があります。我が国は「損失と損害基金」への拠出や省エネ、再エネの活用など、様々な対応策、適応策

を打ち出し、今後は国内施策への展開も期待されます。

県では令和4年3月に策定した「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくり推進計画」に基づき、事業者や県民の皆様とともに温室効果ガスの排出量の削減、再生可能エネルギー等の積極的な利用、気候変動適応策の推進などを進めることとしています。

温室効果ガス排出削減に向け、我々全員が力を合わせて、小さな事から確実に取り組み、実績を積み重ねて行くことが、何より重要です。

企業・事業者の皆様は、温室効果ガスの排出主体である一方、気候変動問題の解決主体にもなり得る存在です。既に実施いただいている取組に留まらず、得意分野や保有技術の脱炭素分野への応用、革新的な技術の開発など、皆様ならではの視点を活かした取組を進めて頂きますようお願いいたします。

一方、足元の備えも重要です。万一の事態に備えたりリスク要因の再検討、対処方針の立案、予防措置と対策の実施、従業員への教育・訓練といった危機管理とあわせて、事業過程における省資源の実践、廃棄物の削減といった、地域の環境保全、環境影響の最小化に向けた継続的な取組を引き続きお願いします。

脱炭の勢いで駆け抜けた令和5年。ようやく以前のような賑わいを取り戻しつつあります。日本人スポーツ選手の活躍は印象的で、我々を勇気づけてくれました。特に野球好きの方々には最高に「熱い」一年だったのではないのでしょうか。令和6年は万事、昇竜の勢いで好転快方旺盛な一年となりますよう期待しています。

本年も貴協会の活動が益々充実され、会員の自主的な公害防止体制の確立、脱炭素化への挑戦や、地域の環境保全の向上に寄与頂くようお願い申し上げますとともに、貴協会ならびに御関係の皆様が益々ご発展され、公私ともに充実した飛躍の年となりますよう御祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和
5年度

第1回環境担当者研修会

湖南・甲賀環境協会研修部会 部会長

京セラ(株)滋賀野洲工場 横江 忠彦



○開催日時：令和5年7月28日(金)13:30~16:00

○開催場所：草津市市民総合交流センター(キラリエ草津)

会員の皆様には環境関連法規制において企業として遵守すべき課題が多くあり、環境担当者の悩むところの要因でもあります。今回は環境担当者の新人の方をはじめ、環境担当者の一助になれるよう弊協会の環境管理の手引き運用についての研修を企画いたしました。又、各企業に於かれましては、他社のCO₂排出量実質ゼロへの取組状況が気になるところかと思ひ、「環境経営の取組について」及び「節電効果とCO₂削減」についての事例紹介を合わせて企画致しました。

◆講演のご紹介

①環境管理の手引きについて

講師：NPOびわ湖環境副理事長
芝本 伊三男氏



1 法の種類

基本的には、国が定める場合と地方自治体が定める場合の2種類に分けられる。

2 環境基本法とは

環境基本法(平成5年法律第91号)

環境保全に関する種々の施策を総合的かつ計画的に推進する。

【環境基本法のキーワード】

＜事業者の責務＞

- ①事業活動に伴って生じる「ばい煙」「汚水」「廃棄物」等の処理その他公害を防止し、自然環境を適正に保全する処置を講ずること。
- ②物の製造・加工又は販売等に当たって製品その他の物が廃棄物になった場合は適正処理を講ずること。
- ③再生資源その他環境への負荷の低減に資する原材料、役務等利用するように努めること。
- ④国又は地方公共団体が実施する環境の保全に関する施策に協力する。

環境基本法とは、国の施策の基本的な方向性を示すと同時に、国民の権利・義務に関する事項を定めている。

②環境経営の取組について

講師：レンゴー株式会社 滋賀工場
総務部 部長代理 小田 敏雄氏



レンゴー株式会社様は、グループの環境経営の取組について、環境方針と環境目標を掲げ2009年にはレンゴーグループ環境憲章を制定、2021年に改訂し「レンゴーグループ環境アクション2050」を策定し、2050年にはCO₂排出量を実質0を目指しています。

レンゴーグループの環境経営のキーワードとして「Less is more」少ない方が豊かであるという意味ですが、減らす事を目的とした思想というよりも、少ないもので最大の効果を得るために、あえて最小限の要素に絞り込むということを表した言葉だと考えます。

レンゴーグループの環境経営は「Less is more」を実現するために、一丸となって取組んでいます。

①実現するハード面の取組

- ・バイオマスボイラ発電設備
- ・蒸気タービン発電設備
- ・マテリアルリサイクル設備
- ・ガスタービン発電設備
- ・太陽光パネル
- ・自動倉庫
- ・廃棄物RPF化設備

②体現する商品群

- ・デルタフルート
- ・LCC原紙
- ・レンゴースマート・ディスプレイ・パッケージング(RSDP)

③海洋分解性製品

④継続的な事業活動を実現するための新たな取組

③SDGs 恒温機能塗料によるエアコン室外機の節電効果とCO₂削減

講師：株式会社 コアブレイン
環境部 部長 中山 拓也氏



エアコンの冷房は室内の熱をくみ上げて室外に排出することで、部屋の中を冷やし、一方暖房は屋外の空気中にある熱を室外機を通じてくみ上げて部屋の中を温めます。

エアコン室外機の電力消費の特性として、外気温とエアコンの設定温度(室温)差が大きいほど、外気と室内の間で運搬する「熱」の量が多くなり、消費電力が大きくなる。

夏におけるエアコン室外機の表面温度は約70℃になり、冬は霜が付着するなど、エアコン室外機は温度変化の激しい屋外に設置され、冷房における電力消費の負荷は、外気温度が上がるほど消費電力があがり、暖房における電量消費の負荷は、外気温度が下がるほど消費電力が上がります。このような要因を解決すべく、恒温機能塗料による遮熱効果実験を経て、夏は表面温度の上昇を抑え、冬は表面温度の低下を抑制し年間を通じて、外気温の影響を抑制する機能を持たせることが出来、この塗料を室外機及び周辺に塗装することで、夏場の温度上昇防止と冬場の凍結防止効果が熱交換効率の改善に繋がり、省エネ効果が実現できたとの事です。

【恒温塗料の特徴とエアコン室外機電力消費量の節電効果】

＜恒温機能塗料の要件＞

夏場は効率よく太陽熱を反射し、表面温度の上昇を抑制してエアコン室外機内部に侵入する熱を抑え、塗装面の熱伝導率を低下し、冬場の表面温度の低下も抑制する。

- 反射機能…太陽熱エネルギーを90%程度反射し、温度上昇を抑え、建物を紫外線から守り長持ちさせる。
- 断熱機能…断熱層を均一に塗装し、熱の侵入を効果的に防ぐ。
- 伸縮機能…柔軟性があり、あらゆる建築材料の温度変化に追従する。

◆西村主幹おわりの挨拶

滋賀県南部環境事務所の西村です。

皆さん今日は長時間にわたりご苦勞様でございます。

本日はNPOびわ湖環境：芝本様から環境管理の手引き運用についてのお話がありましたが、環境法はいくつものジャンルがあり、分かりづらい部分もありますが、是非活用頂ければ幸いです。又レンゴー(株)様の環境経営の取組については、グループをあげての環境アクションへの取組を紹介され、多岐にわたる活動内容に感心致しました。最後に(株)コアブレイン様のCO₂削減に関わる、恒温機能塗料によるエアコン室外機の節電効果については、外気温に左右される室外機への塗布することで遮熱効果を上げ、節電とCO₂削減に寄与している等ご報告頂きました。

本日は皆様有難うございました。

以上



令和5年度 環境先進企業見学研修会

湖南・甲賀環境協会研修部会 部会長

京セラ(株)滋賀野洲工場 横江 忠彦



環境先進企業見学研修会は、4年ぶりの開催となります。

本県の産業廃棄物の受入れが、令和5年10月をもって終了ということから、今後は県外の管理型最終処分場を利用せざるを得ないことから、最終処分まで一貫したリサイクルシステムを展開する三重中央開発株式会社「三重リサイクルセンター」を見学先としました。

見学日は、令和5年8月31日(木)、参加者は41人でした。

◆施設の説明(工場長)要約

1984年、敷地3万㎡、従業員20人からスタート。

現在は敷地70万㎡、従業員は約500人。



収集運搬、中間処理、再資源化、最終処分まで行い、C票～E票まで、東は千葉県から西は沖縄県まで請け負っています。

皆さんから敬遠される施設であることから、親しみ

や安心感を感じとって頂くために、施設をサファリーパーク化し、建物に動物の絵を書き、動物の像も配置、さらに山羊も飼育しています。

地域の要望には、積極的に対応し、地域にお店がないということで、コンビニを出店し、皆さんに大変喜ばれています。赤字覚悟で出店しましたが、地域の方の予想以上の利用者があり利益も出ています。

又、地域の方に安心して頂くために積極的に地元の方を採用しています。

見学は、年約750組、約3,000人を受け入れています。皆さんの安心、安全のご理解がなければ、この事業の活性化ができませんので、情報公開と地域貢献は、積極的に行っています。また、最終処分場ですので、自社が倒産し、事業ができなくなれば皆さんにご迷惑をおかけすることになりますので、絶対、倒産することはいかないという使命感をもって事業にあたっています。

◆施設の概要

三重リサイクルセンターは、70万㎡の敷地に多種多様な廃棄物の処理を可能にするプラントを集結。グループ最大容量の管理型最終処分場運営とジオメルトや焙焼炉、トランスヒートコンテナシステムなど独自の方法で資源循環に取り組んでいる。

01 焙焼炉

○処理能力：200t/日

焼却灰や汚染土壌を約1,100℃の高温で焼成して無害化し、土木資材などに再資源化。重金属、揮発性有機化合物等、有害物質に汚染された土壌の無害化・再生が可能で、PCB汚染土壌の浄化施設の許可も受けている。



02 焼却(サーマルリサイクル)施設

○処理能力：130t/日(焼却)、90㎡/日(乾燥)

廃棄物の焼却時に発生する熱エネルギーを発電に利用し、事業所内に供給。

また、この施設は、フロン排出抑制法に基づくフロン類破壊業者の許可を取得している。



03 RPF製造施設

○処理能力：

69t/日×2基(破碎・圧縮)

42t/日2基(破碎・圧縮固化)

廃プラスチック類と紙屑等からRPF(固形燃料)を製造。RPFは燃焼率が高く、化石燃焼の使用量削減に貢献。



04 汚泥固化施設

○処理能力：400t/日

汚泥を固化材と混合し、混練・造粒することにより再生処理土を製造する施設。これにより処分場の埋め立て負荷低減に繋がり、汚泥が新たな資材として生まれ変わる。



05 電気機器リサイクル施設

○処理能力：30t/日

電気機器を手分解・破碎・剥離し、それぞれの組成ごとに回収。また、小型家電リサイクルやフロン回収にも対応。



06 プラスチックリサイクル施設

○処理能力：36t/日

2022年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」第48条第1項第2号において、三重中央開発(株)が国内初となる認定を取得。

排出事業者5社から排出される廃プラスチック類他、さまざまな廃プラスチック類をベレットに再資源化。



07 Re.トランク施設

総床面積3,900㎡の広さを利用した製品廃棄物等の保管倉庫。監視カメラの設置など、建物全体のセキュリティを図っている。



08 ジオメルト無害化施設

○処理能力：4.75t/日

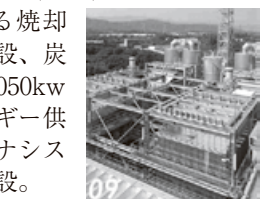
ジオメルトは米国エネルギー省が開発した技術で、1,200℃～2,000℃のジュール熱により残留性有機汚染物、PCB、ダイオキシン、DDTなどの化学物質を無害化。



09 エネルギープラザ

○処理能力：318t/日×2基(焼却)、187t/日(焙焼)、100t/日(乾燥)、30t/日(炭化)

1日に636tの処理能力を有する焼却施設をはじめ、焙焼施設、乾燥施設、炭化施設を備え、排熱利用による約4,050kwの発電システムや地域へのエネルギー供給が可能なトランスヒートコンテナシステムを有する複合型リサイクル施設。



10 管理型最終処分場

○許可容量：12,807,077m³

リサイクルの過程で発生する残さ物や再生不可能な廃棄物を処分。浸出水については、水処理施設で薬品処理、生物処理、活性炭処理、膜処理により浄化。



10

11 蒸発濃縮結晶化設備

○処理能力:300m³/日

水処理施設で浄化した水をさらに精製し、プラント用水として場内の各施設で利用。

この設備により浸出水のクロード化が実現し、水資源の循環につながっている。



12 アスベスト解体ライン

アスベストは断熱性、防音性など優れた特性から工業製品として広く利用されてきた。それらアスベスト含有製品の分解・回収を行っている。



12

他の施設

木材チップ製造施設

処理能力：250.56t/日（破碎）

破碎選別施設

処理能力：250t/日（Aライン）

処理能力（破碎施設）：120t/日（Bライン）

令和5年度 水質事故被害拡大防止訓練を開催

座学・通報訓練

地区懇部会長 ダイハツディーゼル(株) 三宅 智也

今年度も、水質事故被害拡大防止訓練として、「座学・通報訓練」と「実地訓練」を開催しました。



南部会場



甲賀会場

まず、「座学・通報訓練」は、9月13日に甲賀地区として甲賀合同庁舎にて、そして9月19日南部地区としてキラリエ草津と二会場に分かれて開催し、合計142名と多数の参加をいただきました。また参加の内訳で行きますと会員企業だけでなく会員外の方、そして行政よりも多数参加をしていただき、大変感謝しております。

講師は、今年度も甲賀消防本部ならびに湖南広域消防局に対応していただき、「危険物（油・化学物質を含む）漏洩事故の予防と漏洩事故発生時の対応について」をテーマに講演をいただいております。



湖南広域消防局 予防課 和田氏



甲賀広域行政組合消防本部 予防課長 安田氏

その中で、①危険物事故の事例紹介、②万が一、事故が発生した場合の対策、③風水害時の対策等について、詳細に説明していただきました。

事例紹介の中で、発生原因の説明がありましたが、火災発生では第1位に操作確認不足とあり、流出事故の第1位は設備老朽化と説明がありました。これは、有事の

際の対応は当然ですが、平時の際にどれだけ従業員に対して教育を実施し、自分事として対応ができる感性の醸成が大事であり、また点検など設備の維持管理など、日常からの活動の重要性を認識させられる場となりました。

その後、実際の事故発生時に適切に対応できるように、通報訓練を実施しました。まず、湖南広域消防局作成の動画を視聴し、通報のポイントについて学びました。この内容を受けて、実際の通報模擬訓練を、事故事例をもとにして発生事業者・行政・消防間で二事業者に体験していただきました。訓練者と、行政そして消防との応答方法を参加者各位の前で実際にやり取りを行う方法で実施されましたが、動画を事前に見ていることもあり、応答はスムーズに行われました。模擬とは言え、実際にやり取りをするという貴重な場面を見ると、応答は冷静に対応することが重要であること、また状況把握を確実に行わないと、正確な情報を行政・消防へ伝えることができないことが認識できた素晴らしい研修となりました。

この研修は、重要な場であると各機関よりも認識されており、管外の行政の方々も参加していただいております。また、一般からの参加も見られ社会貢献の場としても意義深かったものであったと考えております。

環境事故は、あってはならないことです。しかし、発生した場合は冷静に対応し、被害を最小限にとどめることが大変重要です。実地訓練での内容も重要ですが、机上での訓練も非常に重要ですので、各企業様でも実施していただき、有事の際に活用していただきたいと思います。また、何よりも環境への意識向上に努めていただきたいと思います。今後の訓練におきましては、今回の反省や皆様のご意見も取り入れながらより良いもの、効果的なものへ改善していきますので、今後もお参加くださりますようよろしくお願いいたします。



実地訓練

地区懇部会長 積水化学工業(株)滋賀水口工場 天野 裕文

今年度も、水質事故被害拡大防止訓練として「座学・通報訓練」と「実地訓練」を開催いたしましたので、「実地訓練」についてご報告いたします。



「実地訓練」は、10月3日(火)湖南市雨山文化公園内体育館および周辺水路で行われました。昨年度は、午前の部と午後の部を、それぞれを南部管内、甲賀管内に分けて開催いたしましたが、今年度は、両管内合同で開催することとしました。当日は好天にも恵まれ、会員企業様並びに各行政様併せて137名と多数の皆様にご参加いただきました。この人数は昨年度の106名を大きく上回るもので、非常に大勢の方々にご参加いただくことができました。

I部の座学は、谷口商会(株)小野様に「危険物漏洩時における措置の基本」について講義を頂きました。油流出の場合、初動対応として、出来るだけ早く拡散を防止し、もれ油を止めることが被害を最小限に留めるために重要であることや、具体的な初期対応・オイル



マットやオイルフェンスなどの資材の効果的な使用方法などについて、わかりやすく説明をしていただきました。



II部の実地訓練では事故が発生した場合の緊急資材の使用方法を4班にグループ分け(①土嚢作り、②土嚢の積み方、③吸着マット、④吸着材)し、その現物



①土嚢作り



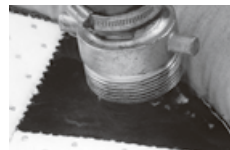
②土嚢の積み方



③吸着マット



④吸着材



を実際に使用した作業や性能確認等を行っていただきました。適切な資材を使用すれば、効果的に油の流出防止や吸着・除去が行えることを皆さん興味深く体験しておられた様子でした。

その後、水路で油流出想定訓練として事業所での油流出事故があり、一部河川に油が流出したとの想定で班編成を組み、油回収作業として土嚢による水路の堰止め、吸着型オイルフェンスの展帳、吸着マットの設置等の実践訓練を実施しました。このような形で油回収の手順を実際に体験することは貴重な経験であり、皆さん真剣に訓練に取り組んでおられました。



また、訓練当日はNHK様の取材がありました。Eテレの「ズームジャパン」という小学5年生向けの社会科番組で「環境を守るわたしたち」というテーマで環境保全の取組を取材されました。市民・行政・企業



それぞれの立場の方々の努力で琵琶湖の環境を改善し、継続して守っているという様子を取材すべく、映像の撮影やインタビューをされていました。この番組は24年の3月に放送される予定とのことですので、ぜひご覧いただければと思います。

以上の訓練は今年度も、県・市・協会役員の皆様、協力業者の皆様、各会員の皆様、参加者の皆様のご協力により開催することができました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。環境事故は何より発生させないための未然防止対策が重要であることは言うまでもありません。しかしながら、万が一不幸にして事故が発生した場合、被害を最小限にとどめるため、河川等への環境被害防止に目を向け、日頃から訓練に取り組むことは非常に重要です。皆様におかれましては、この点をあらためて認識いただき、日々の活動に取り入れていただければ幸いです。

また、今回の訓練では、参加人数の割には訓練時間が短かったなどの反省もあります。会員の皆様のご要望やご意見などを踏まえながら、より効果的な訓練に改善すべく努めてまいります。今後ともご参加のほどよろしくお願いいたします。

令和
5年度

第2回環境担当者研修会を開催

湖南・甲賀環境協会研修部会 部会長

タキロンシーアイ(株)滋賀工場 山本康広

本年度、第2回目の環境担当者研修会も滋賀県南部環境事務所、滋賀県甲賀環境事務所及び湖南・甲賀環境協会の共催で、2テーマを取り上げ研修会の開催をさせていただきました。

1テーマ目は「産業廃棄物の処理について」～排出事業者の責任～を滋賀県甲賀環境事務所様に講演いただきました。

2テーマ目は「低濃度PCB廃棄物の処理と対策について」低濃度PCB廃棄物の無害化処理及び使用中の低濃度PCB含有電気工作物の処理についての流れと対策について、近畿環境保全株式会社様に講演いただきました。

2テーマとも環境関連法の基本として各企業様の環境担当者の一助になればと企画したのですが、質疑応答まで皆様が熱心に聴講されており大変有意義な研修会になったと思います。



甲賀会場



南部会場

甲賀地区は、11月13日滋賀県甲賀合同庁舎にて

60名(会員39名、会員外11名、行政10名)

南部地区は、11月22日草津市立市民交流プラザにて

61名(会員44名、会員外10名、行政7名)

の参加者を得て開催いたしました。

当日のプログラムは、次の通りです。

◆開会の挨拶

滋賀県甲賀環境事務所 所長 青木 純一 氏

◆内容

①「産業廃棄物の処理について」
～排出事業者の責任～

講師：滋賀県甲賀環境事務所
主幹 西村 政則 氏



西村 政則氏

②「低濃度PCB廃棄物の
処理と対策について」

講師：近畿環境保全株式会社
営業部 営業二課
田代 杏奈 氏
オオノ開発株式会社
磯 康平 氏



田代 杏奈氏

◆閉会(事務局にて)

【講演の一部を紹介させていただきます】

①「産業廃棄物の処理について」～排出事業者の責任～

はじめに環境基本法における廃棄物に関する法体系や廃棄物処理法の目的として廃棄物処理法第1条 ①廃棄物の排出を抑制 ②廃棄物の適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理 ③生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。次に排出事業者の責務として第3条 事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責務において適正に処理をしなければならない。第11条第1項 事業者は、その産業廃棄物を自ら処理しなければならない。(この自らの処理には、排出事業者が第三者に対して適正な委託に基づき処理する場合を含む。)

第12条第7項 事業者は前二項の規定によりその産業廃棄物の運搬又は処分を委託する場合には、当該産業廃棄物の処理の状況に関する確認を行い、当該産業廃棄物について発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の行程における処理が適正に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。法律上は自ら処理が原則処理を委託しても、最後まで排出事業者には責任がある。との廃棄物処理法について説明をいただきました。



次に具体的な内容として、産業廃棄物の種類(品目)や廃棄物?と有価物?産廃と?一廃?の判断基準や排出事業者の義務について・処理のルール(流れ)・保管基準・処理基準・自社処理と委託処理・契約書内容・マニフェスト・工場立入での指摘例など詳細に説明をいただき、参加された皆さんも、廃棄物についてより理解を深められたものと思っております。

②「低濃度PCB廃棄物の処理と対策について」

近畿環境保全株式会社様の会社案内からはじまり、具体的内容として・PCBとは?・高濃度PCBの処理期限・低濃度PCBの処理期限(2027年3月31日まで)・低濃度PCB含有の恐れがある機器・対象機器・対象製造年・対象製造年が異なるメーカーの説明と機器の調査方法で自家用電気工作物の調査手順・非自家



用電気工作物の調査手順・絶縁油の採取方法と分析方法について詳細な説明いただきました。

また発見事例として受電設備・配電盤の発見事例、動力盤に設置された低圧コンデンサ・機器に内蔵されたコンデンサの発見事例や微量PCB含有の可能性がある安定器についてメーカー毎の見解やPCB含有塗膜くずについても説明をいただきました。最後に処分業者であられるオオノ開発株式会社様の紹介があり、

45分程の時間の中にも参考になる内容も多かったと思います。本研修会に参加いただいた企業さんごとに状況は違うと思いますが、自社の現状を把握し適正な廃棄物管理を行う上で本研修会がお役に立てたのなら幸いです。

皆様、最後まで熱心なご聴講ありがとうございました。

以上

環境美化の日 ご協力有難うございました。

令和5年度の環境美化の日の清掃活動は、南部地区は11月27日(月)野洲市図書館を起点に周辺道路において、甲賀地区は11月30日(木)甲賀市水口スポーツの森を処点に水口町中心部及び野洲川沿い道路において総勢356名ものご参加のもと実施されました。

年の瀬が迫るお忙しい中、ご協力いただき誠に有難うございました。

湖南・甲賀環境協会会員の皆様から47社142名の方にご参加いただきました。

11/27

南部地区



当日のごみ収集量

- ・可燃ごみ：60kg
- ・不燃ごみ：10kg



11/30

甲賀地区



当日のごみ収集量

- ・可燃ごみ：17kg
- ・不燃ごみ：4kg



訂正 「こなん」122号での掲載記事誤りについて

8月に発行致しました、こなん122号に掲載いたしました、総会記念講演記事にて誤りがありましたので、お詫び申し上げます。下記講演内容での、「5.近年の琵琶湖水質の特異な変動」にての記事内容について訂正させていただきます。

5. 近年の琵琶湖水質の特異な変動

- ・北湖の初夏における大型緑藻の大発生(平成24年以降みられる)
- ・近年の植物プランクトンの特異な増加

誤・平成30年、31年冬に北湖深水層の全層循環が完了した

正・平成31年、令和2年冬(平成30年度、31年度)に北湖深水層の全層循環が完了しなかった

編集後記

謹んで新春をお祝い申し上げます。

皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は当協会に対しまして多くのお力添えを頂き誠にありがとうございました。

年末年始におかれましては、コロナの影響も落ち着き、各企業様におかれましては忘年会や新年会を実施されているかと思えます。全世界ではカーボンニュートラルやCO₂削減に取り組んでおりますが、「フードロス(食べ残し)」についても全く無関係ではありません。

飲み会の席では残さず頂き、ロスをなくすことで環境負荷の低減に取り組んでまいりましょう。

紙面でも紹介しました「水質事故被害拡大防止訓練」におきましては、行政ならびに会員企業の皆様を含め多くの方々へ御参加、御協力頂きまして無事実施する事が出来ました。訓練に関しては、今後もより有意義なものとなるよう工夫し、実施してまいりますので

引き続き御協力下さいます様よろしくお願い申し上げます。

2024年は辰年という事で十二支の動物の中では唯一、架空の動物とされていますが、辰は非常に縁起の良い神聖な生き物とされています。2024年は甲辰(きのえたつ)で「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増していくという意味だそうです。昨年まで努力してきたことが実を結んで成就する年となることでしょう。

過去には、甲辰の年で東京オリンピックの開催や、東海道新幹線開業など新しい技術が広く使われる出来事が多かったそうです。2024年もAIを活用した技術の普及がより広まり豊かな社会へとなっていくことを期待したいです。

2023年度も残り数か月余りとなりましたが、当協会の活動についてもより、皆様のお役に立てるよう取り組んでまいりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。(プロースト)